



# 子どもたちが結ぶ両町の友情と絆

鶴の架け橋交流事業 「つるた&さつまにぎりまんま塾2015」

「鶴の架け橋交流」は、合併前の旧鶴田町（現在の鹿児島県さつま町）と当町が、「鶴田町」という同じ町名が縁で平成9年に姉妹都市盟約を締結して以降、両町の活性化を目指すため、幅広い分野で展開してきた交流事業です。

両町の子どもの交流は、「未来の翼2004」（平成16年）で、当町の子どもたち41人が旧鶴田町を訪問したのが始まり。その後、「未来の翼2005」（平成17年）、「未来の翼 青少年交流事業」（平成18年）と続き、今回、約9年ぶりに両町の子どもの交流が開催されること

となりました。

「つるた&さつまにぎりまんま塾2015」と題した今回の交流では、子どもたちが、郷土料理や伝統工芸などに触れ、互いの風土や習慣の違いを身をもって体験することで、幅広い視野と寛大な心を育むことを目的としています。

8月17日（月）の朝、役場前町民プラザで行われた出発式では、ジュニアリーダーズクラブ「HIZURU」の北谷優典君（鶴田高校3年）が「私たちが両町の架け橋となるよう南国の友と存分に交流を楽しんでください」とあいさつ。家族に見送ら



8月17日（月）から20日（木）までの日程で、当町の小中学生および高校生21人が、友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町を訪問しました。

子どもたちは滞在中、一般家庭にホームステイしたり、さまざまな体験をおして、さつま町の子どもたちとの交流を深め、かけがえのない友情と絆を育んできました。

National Institution For Youth Education  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
「子どもゆめ基金助成活動」

◁今回の交流では、独立行政法人国立青少年教育振興機構が実施している「子どもゆめ基金助成事業」を活用しました。





⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

れながら、21人の子どもたちが期待と不安を胸に2000km離れたさつま町へ出発しました。一行は17日の夕方にさつま町に到着。約9時間の長旅の疲れも見せず、元気いっぱいさつま町の子ともたちと顔を合わせました。

3泊4日の滞在中、当町の子どもたちは、同世代の子どものいる家庭に2泊ホームステイ。ねぶた囃子の演奏やさつまあげ作りなどの両町の文化を互いに楽しみました。ほかに、ドラゴンボート体験やバーベキュー、キャンプファイヤーなども行われ、さまざまな体験を共にすることで、子どもたちが両町の文化や習慣について、理解を深めながら、友情と絆を育んできました。

- ①両町の子どもたちがゲームで交流を深めました。
- ②長さ450m、高さ117.5mのコンクリート製の「鶴田ダム」を見学。
- ③滞在中は心温かいさつま町の皆さんの家庭にホームステイしました。
- ④3日目の夕食は仲良くバーベキュー。
- ⑤鹿児島県の清流「川内川」でドラゴンボートの乗船体験をしました。
- ⑥さつま町の郷土料理「さつまあげ」作りを体験。
- ⑦みんなで作ったさつまあげをお昼ごはんに食べて親睦を深めました。
- ⑧2日間練習したねぶた囃子を両町の子ともたちが披露しました。
- ⑨最後の宿泊の日の夜は、外でキャンプファイヤー。



さつま町の子ともにとぎりまんま